

洋裁業発祥の地を記念して バウンスドレスの寄附贈呈セレモニーを 開催します

このたび、横浜が日本における洋裁業発祥の地であることを記念し、洋裁技能を広く市民に知っていただくため、全日本洋裁業発祥記念碑保存会より、鹿鳴館時代のスタイルを再現したバウンスドレスのご寄附をいただきましたので、次のとおり寄附贈呈セレモニーを開催いたします。

なお、このドレスは、婦人服裁縫師の横浜マイスター、故本間初恵氏が縫製したもので、中区山下町の日本洋裁業発祥顕彰碑のモデルとなっています。今後は、横浜市技能文化会館にて一般公開いたします。

1 寄附者

全日本洋裁業発祥記念碑保存会
会長 伊波 洋之助 様

2 寄附物品

記念ドレス（鹿鳴館時代のバウンスドレス）一式
※故本間初恵氏（横浜マイスター：婦人服裁縫師）の作品

3 寄附贈呈セレモニー

- | | |
|---------|---------------------|
| (1) 日 程 | 平成 29 年 9 月 3 日（日） |
| (2) 時 間 | 11 時 00 分～11 時 30 分 |
| (3) 会 場 | 横浜市技能文化会館 1 階 匠プラザ |
| (4) 内 容 | |

- ・同会より横浜市へバウンスドレスの贈呈（同会会長 伊波 洋之助様より）
- ・感謝状贈呈（林 琢己経済局長より）
- ・バウンスドレス披露（モデル着用）



4 取材について

当日、直接、会場にお越しく下さい。

お問合せ先

経済局 雇用労働課長 奥津 直臣 TEL 045-671-2303

※本件は横浜経済記者クラブへも同時発表しています。

裏面あり

<参考>

◆今回寄附を受納するバesslerドレス

鹿鳴館時代のバesslerドレス 一式

(含：ペチコート、帽子、手袋、アンブレラ)

- ・平成7年に、婦人服裁縫師の横浜マイスター
本間初恵氏により縫製
- ・日本洋裁業発祥記念碑のモデル
- ・大きさ
高さ 175 cm (人台上端までの高さ)、
横幅 75 cm、奥行き 65 cm



◆製作者

故 本間初恵 氏 (横浜マイスター・婦人服裁縫師)



その優れたデザイン力、卓越した手作業の技法と縫製技術は、開港期の伝統を伝える鹿鳴館時代の「バesslerドレス」等の婦人服に見られ、高い評価を得ました。また、技能検定向上訓練講習会の訓練講師として、数多くの合格者を誕生させ、後継者を育てられました。

◆日本における洋裁業の発祥について

— 和服しかなかった日本に
華やかな洋装が登場した元町 —

場所：中区みなとみらい線元町・中華街駅3番出口となり



洋裁

1863年、英国人ミセス・ピアソンがドレスメーカーを横浜で開業したことが洋裁業の歴史の始まりです。

和服の仕立など、国内で衣類に関する仕事を生業としていた職人たちが居留外国人に技術を教わり、「洋服」の文化が急速に人々の間に広まっていきました。

(出典：「ハマの職人」ハンドブック)

◆横浜マイスターとは

横浜市では平成8年度から、後継者の育成・確保、貴重な技能の継承及び技能職の振興を図ることを目的として、優れた技能職者を横浜マイスターに選定しています。

横浜マイスターは、学校や地域の行事などで技能を伝える活動を行っています。